

# 和歌における散らし(2)

高 木 厚 人  
Atsuhio Takagi

A 作品題名 よしの山

行構成 (II)

① 素材

吉野山人に心をつけがほに

前半二行は主の行と従の行との関係、後半二行は渴筆の行と墨を入れての潤筆の行との関係を意識した。

花まつ峰にかかる白雲

④ 文字構成

② 歌意

吉野山では、見る人に桜の花のことを思い起こさせるかのごとくに、花の咲く前に、山に白雲がかかっていることである。

漢字は「山」「人」「心」「雲」の画数が少なく単純に書けるものだけを用いた。仮名も単純なものだけを用いた。

③ 行構成 (I)

寸松庵色紙の二集団の散らしをヒントに、上の句と下の句とを右と左の二集団に配した。

⑤ 線

直線を多用するよう心掛けた。

⑥ 墨量・用筆

墨は料紙に合わせ、一、二、三、四行が、中・弱・弱弱・強をなるように調整した。筆はあくまでも直筆である。

⑦制作意図

料紙の中に一つの調和が生まれることを願った。

B 作品題名 なにとなく

①素材

何となく春になりぬと聞く日より

心にかかるみ吉野の山

②歌意

春が立ったと聞いた日から、何となくみ吉野の山の桜のことが気にかかるよ。

③行構成（Ⅰ）

寸松庵色紙の二集団の散らしをヒントに、上の句と下の句とを右下と左との二集団に配した。

行構成（Ⅱ）

前半三行は中・大・小の関係、二行目がこの集団の柱で三行目は添わせる行として書いた。後半二行は渴筆の行と墨を入れての潤筆

の行との関係を意識した。

④文字構成

漢字は「春」「心」「吉野」「山」を用いた。単純に書けるものと固有名詞である。

⑤線

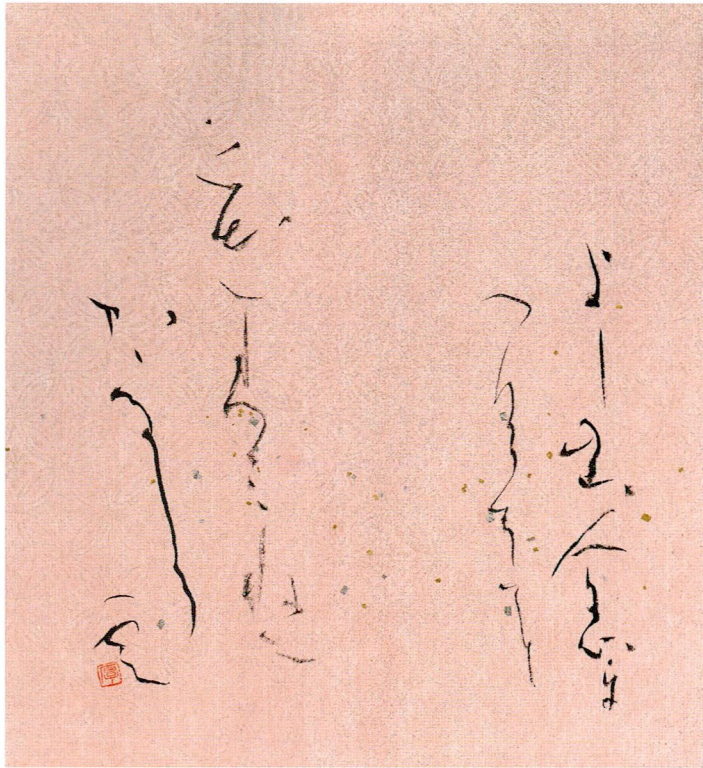
曲線を必要以上に用いぬよう留意した。曲線は直線の連続で組み立てられていることを意識した。

⑥墨量・用筆

墨は料紙に合わせ、一、二、三、四、五行が、中・弱・弱弱・弱・強となるように調整した。筆はあくまでも直筆である。

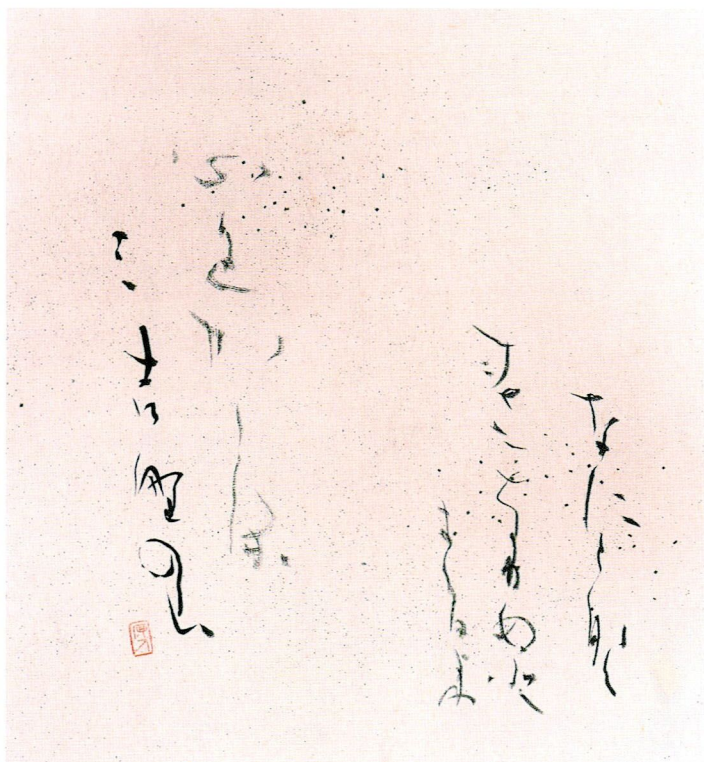
⑦制作意図

料紙の中に一つの美しい秩序が生まれることを願った。



27.1×25.1cm

吉野山人に心をつけがほに  
花まつ峰にかかる白雲



27.1 × 25.1cm

何となく春になりぬと聞く日より  
心にかかるみ吉野の山